「こだわりの宿」36軒を紹介　特集

富山県・宇奈月温泉

延楽

車いすのまま温泉入浴

バリアフリー

富山県宇奈月温泉の「延楽」(濱田政利社長)は、バリアフリーに対応した客室を持つ。今年6月1日、高齢のリピーターらの声にこたえて設置。車いすのまま入れる風呂は好評で、何度も利用する人がほとんどという。

風呂の入り口は車いすでも入りやすいよう広く設計。浴槽や浴室の床材にはヒノキを用い、湯船には身障者用の取り外し可能なリフトを設置した。湯は源泉掛け流しで美肌や疲労回復などに効果があるという単純泉。

客室は、浴室も含め約29畳。3部屋分のスペースを1部屋として使用。移動をスムーズにするためリビングや寝室の床は段差をなくし、トイレはゆったりとしたつくりだ。

車いす利用者やその家族はもちろんのこと、健常者にはワンランク上のくつろぎを提供できる部屋になっている。

▽延楽は富山県黒部市宇奈月温泉347―1。☎0765・62・1211。http://www.enraku.com/

宿泊客に好評のバリアフリー・ルーム

山梨県・富士河口湖温泉郷

若草の宿 丸栄

「宿は舞台、私たちは役者」

接客・サービス

従業員の接客の良さが高い評価を受けているのが山梨県・富士河口湖温泉の「若草の宿丸栄」(渡辺昭夫社長)だ。「宿は舞台、お迎えする私たちは役者」という考えのもと、宿泊客のチェックイン(開演)からチェックアウト(カーテンコール)までを1回の舞台公演に例え、その中で「従業員(役者)はマニュアル(台本)通りの動きに加え、それ以上の接客(機転をきかせたアドリブ)でお客さまを満足させる」ことを目指す。

そのため従業員教育には特に力を入れる。「臨機応変な対応能力は基本の集大成」という信念のもと、接客マニュアルを日夜改善し、徹底的に仕込むが、マニュアル人間にならないよう現場での実践指導も怠らない。

また、短期間で即戦力に仕上げるために、研修では進行シートを用いて学んだことの理解度や習熟度をその都度把握させ、週1回のペースで入念にチェックしていく。

「旅館には衣食住を提供し、さらにお客さまの命をお預かりする責務がある。お客さまに『この人なら任せて大丈夫』と安心していただけるところまで接客サービスのレベルを高める」と目標を高く掲げる。

「人(お客さま)が人(従業員)に癒される宿を目指しており、喜ばれることに喜びを感じるスタッフの成長を見るのが一番嬉しい」(同館)。

若主人(渡辺洋専務)も自ら現場の前線に立つ。夕食後のひとときに行う、昔懐かしい紙芝居や民話の語りだ。地域の観光イベントがない時期を中心に年100日ほど上演する。日本演劇界の大丈夫至宝と称される演出家が「人の世の喜怒哀楽を見事に表現し、観客の心の琴線を自在に奏でる名人芸」と絶賛した舞台は上演を待ち望む人も多く、宿の名物となっている。

今春には待望のエステルームもオープンした。

▽若草の宿丸栄は山梨県南都留郡富士河口湖町小立498。☎0555・72・1371。http://www.maruei55.com/

湖(うみ)の湯

若主人の紙芝居

石川県・輪島ねぶた温泉

海游 能登の庄

土地の器で土地の味

料理・食事

「海游能登の庄」(大向洋紀社長)では、能登の味を輪島塗の漆器で堪能できる。創作懐石料理「能登味彩」は部屋食でぜいたくなひと時を満喫。食事処での炉端料理を選ぶと、囲炉裏を切った個室で野趣あふれる焼き物などが楽しめる。

懐石、炉端いずれの料理を選んでも新鮮な山海の幸が並ぶ。夏場は海女が獲ったアワビやサザエ。秋には底引き漁で揚がったヒラメなどの魚介に加え、野山で採れるキノコがうまい。11月に入ると、地元で「加能ガニ」と呼ぶズワイガニ、寒ブリが旬。冬～春は海藻を粕仕立ての鍋にした郷土料理なども味わえる。

輪島の中心市街地には酒蔵が4つあり、能登の庄では、都市部に出回らない銘酒も出す。

土地の器で土地の味を楽しむ。輪島でしか味わえない醍醐味がある。

▽海游能登の庄は石川県輪島市大野町ねぶた温泉。☎0768・22・0213。http://www.notonosho.co.jp/

囲炉裏のある炉端料理

長野県・扉温泉

明神館

自家農場で育てた新鮮野菜

料理・食事

信州松本の豊かな自然の中で静かな癒しのひとときを提供する宿として名高いのが、扉温泉の明神館(齊藤茂行社長)。もてなしの心から徹底的に磨きをかけた接客や温泉、たたずまいなどが多くの人の心をつかんでいる同館だが、中でも料理は、訪れた人に「また来たい」と思わせる魅力にあふれている。

近年「地産地消」が注目を浴びるが、同館では20年以上も前から地産地消を実践。なかでも野菜は、JAS有機認定を受けた自家農場で育てた、取れたてのものをふんだんに提供。うっすらと味付けし野菜の滋味を生かした料理は、同館の食事の名物として知られる。

シチュエーションに合わせ予約時に、料理を「懐石料理」「モダン和食」「オーガニックフレンチ」から選べるのも同館の魅力の1つ。夕食は午後6～8時、朝食は午前8～10時にそれぞれ違った趣の食事処で供する。

オーガニックフレンチは、「バターや肉などが多く、重い」といったフレンチのイメージを覆す、軽やかさが特徴。自然食「マクロビオティック」の第一人者・久司道夫氏の指導を受け、食育アドバイザーとしても活動する田邉真宏シェフが生み出す料理は、目にも舌にも体にもうれしいメニューばかり。特に地のシイタケのうまみが凝縮した「椎茸のテリーヌ」は賞味してほしい一品だ。

これからの季節は、鹿肉や信州の山でふんだんに取れるさまざまなキノコ、カブなどの冬野菜などがメニューを彩る。懐石では、マツタケの産地として名高い松本市四賀産のマツタケを使った料理を供する。

また同館では、朝食を取らない人や朝寝坊したい人に向け、朝食をフレンチのブランチに変更するプランも設定しており「ゆったりと過ごしてほしい」とのもてなしの心はここにも垣間見える。

▽明神館は長野県松本市入山辺8967。☎0263・31・2301。http://www.tobira-group.com/

盛り付けも美しい懐石料理

椎茸のテリーヌ

香川県・花樹海温泉

喜代美山荘 花樹海

多島美と街の絶景望む

眺望

「喜代美山荘花樹海」(三矢昌洋社長)は、客室、展望大浴場から屋島、鬼ケ島など瀬戸内海の多島美や高松市街地の夜景などを望むことができるロケーション自慢の宿。

客室には、足元から広がる全面ガラスを採用。露天風呂付き和室など、趣きの異なる全ての客室から、刻一刻と変化する瀬戸内の景色を堪能することができる。

視界200度の展望パノラマ大浴場からは、瀬戸内海と高松市内の両方を見渡せる。温泉は、花崗岩岩盤深くから湧き出し、高濃度のラドンが主成分で毎分200トンの豊富な湯量を誇る。

源泉は館内全客室にも引かれ、アジアンリゾートなどをコンセプトにしたデザイナーズルームでは、テラスで露天ジャグジーが楽しめる。泉質は弱アルカリ性低張性冷鉱泉で、関節痛、疲労回復などに効能がある。

▽喜代美山荘花樹海は香川県高松市西宝町3―5―10。☎087・861・5580。http://www.hanaiyukai.jp/

デザイナーズルーム　オリエンタルヴィラ(蒼の楽園)

静岡県・かんざんじ温泉

ホテル九重

自家源泉の「天然療養温泉」

温泉・浴場

静岡県浜名湖畔、舘山寺(かんざんじ)温泉を代表する宿が遠鉄グループのホテル九重(堀田隆壽社長)だ。遊覧船、ロープウェイ、遊園地パルパルなど周辺に多くの観光施設があり、観光の拠点として、年中多くの客でにぎわっている。

同ホテルの特徴は自家源泉を持っていること。そして、温浴施設が充実していることだ。

温泉はホテルの敷地内、地下1850メートルからわき出ている天然の「療養温泉」だ。この療養温泉とは、有効成分の基準をクリアして「温泉」に指定されたものを、さらに厳しいふるいにかけたもので、通常の温泉より医療的な効果が一層期待できるという。源泉の温度は41・6度で、泉質は「ナトリウム・カルシウム塩化物温泉(食塩泉)」。ミネラル成分が肌に入りやすく、体にたまった老廃物を排せつするという。

館内の大浴場は2カ所で、男女入れ替え制。いずれもこの療養温泉を、加水せずに使っている。

大浴場「遠州絵巻の湯」は、安藤広重の浮世絵の世界を繊細優美なガラス絵で表現した、純和風空間。日本3大美林のひとつ「天竜杉」を使った7つの内湯のほか、舟形のかけ流し露天風呂、鍾乳石の露天風呂を持つ。

大浴場「大正浪漫の湯」はクラシカルモダンなステンドグラスを窓と天井に配した大正ロマン風のおしゃれな浴場。日本初という天然鉱石を使った風呂をはじめ、8つの内湯を持つ。このほか貸し切りの個室風呂と露天風呂、足湯を備える。

さらに姉妹館のホテルウェルシーズン浜名湖内の「華咲の湯」も同ホテルの宿泊客は利用できる。

温泉自慢の同ホテルは料理自慢でもある。浜名湖の新鮮な魚介類を中心にメニューをそろえ、いけす割烹、個室料亭、宴会場など、旅のスタイルに合わせて好みの会場を選んで食べてもらう。

▽ホテル九重は静岡県浜松市西区舘山寺町1891。☎053・487・1112。http://konoe.entetsu.co.jp/

遠州絵巻の湯

ホテル九重全景

香川県・こんぴら温泉郷

湯元こんぴら温泉 華の湯紅梅亭

16の多彩な湯処楽しむ

温泉・浴場

香川県こんぴら温泉郷の「湯元こんぴら温泉華の湯紅梅亭」(近兼弘幸社長)は、2種類の良質な源泉を館内16の多彩な湯処で楽しめる温泉自慢の宿。「湯元こんぴら温泉華の湯」と「こんぴら温泉いこいの湯」の2種類の温泉が堪能できる。

独自源泉「華の湯」の泉質はナトリウム・カルシウム-塩化物温泉。庭園大浴場露天風呂「花てらす」で楽しめ、花に包まれた庭園露天風呂をはじめ檜風呂や岩風呂、足湯、湯上り処などを外湯感覚で満喫できる。

「いこいの湯」の泉質はアルカリ性単純温泉。地下大浴場「花すみか」で楽しめ、うたせ湯やあわ湯、女性客には、朝はデンファレ、夜はバラの花びらを浮かべた「華風呂」など、趣向を凝らした湯浴みができる。

夕食は、地元産の有機野菜や瀬戸内の海の幸を使った会席料理。

▽湯元こんぴら温泉華の湯紅梅亭は香川県仲多度郡琴平町556―1。☎0877・75・1111。http://www.koubaitei.jp/

花てらす露天風呂

岐阜県・下呂温泉

水明館

趣向異なる3ヵ所の大浴場

温泉・浴場

江戸時代から湯治場として栄えてきた岐阜県の下呂温泉は、「日本三名泉」の一つに数えられる。別名「美人の湯」ともいわれ、入浴後もしっとりと滑らかな肌を保つと評判だ。同温泉では、74年から全国に先駆けて温泉の集中管理を行っており、加温も加水もせずに源泉を各旅館に送っている。

温泉街の中央を流れる飛騨川沿いに建つ水明館(瀧多賀男社長)は、3カ所の大浴場や野天風呂が自慢の同温泉を代表する老舗和風旅館。敷地内にある山水閣、飛泉閣、臨川閣のそれぞれに大浴場があり、どの棟に宿泊しても24時間利用できる。

眺望を楽しむなら、飛泉閣9階の「展望大浴場」がおすすめ。全面ガラス張りの窓からは、下呂温泉の街並みや飛騨の山々が一望できる。

臨川閣の「下留の湯」は、天井、壁、柱まで檜にこだわった贅沢な造り。高温浴槽、低温浴槽、檜風呂、サウナと多彩に温泉を楽しめる。

野天風呂は、男性用「龍神の湯」、女性用「観音の湯」の2カ所があり、飛騨の星空を眺めながら、野趣溢れる岩風呂の風情を堪能できる。

泉質は、アルカリ性単純泉。適度な濃度とアルカリ性のため自然の石鹸効果があり、つるつるとした滑らかな肌触りが特徴だ。リウマチ、神経麻痺、疲労回復などに効能がある。客室(飛泉閣は特別室のみ)にも源泉をそのまま引き込んでいる。

料理は、部屋で食べる会席膳のほか、和洋中のバラエティに富んだオープンキッチンダイニング、料理茶屋「北乃寮」などで味わえる。地元産の食材にこだわり、地元農家を中心に、同館の料理のレシピに合った野菜を栽培している。

昨年12月末には、環境ISO14001を取得し、「環境に優しい旅館作り」に取り組んでいる。

▽水明館は岐阜県下呂市幸田1268。☎0576・25・2800。http://www.suimeikan.co.jp/

岩風呂の風情が楽しめる

臨川閣「下留の湯」